

仙石山仏教学論集
第6号（平成23年）

Sengokuyama Journal
of Buddhist Studies
Vol. VI, 2011

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範
（苾芻習學略法附）』の翻訳者は誰なのか
—その序文の分析

欽達木尼

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』の翻訳者は誰なのか —その序文の分析

欽達木尼

はじめに

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』（以下『儀範』と略す）はパクパの著作の一つであり、『磧砂藏』、『縮刷大藏經』（寒六）、『卍字藏經』（十九・六）、『明北藏』（1182 夫）、『清藏』（1132 夫、至 1274 志）、『大正大藏經』（45 卷、NO. 1904）、NJ. 1137 に収められている。本文は出家の作法、具足戒を受ける作法を説いている。序文ではこの『儀範』を作った経緯、目的、翻訳者等について詳しく書かれてはいるが、『儀範』が元の時代に書かれた際、本文はチベット語で書かれ、これを漢文に翻訳した人物は漢人ではないため、漢人によって書かれた文章とはまた異なるものとなっていることから、本文では人名と官職名が混在している上、古文の読み方が不明なところもあり、理解し難い点が多い。そこで筆者は、『儀範』の主たる刊本を分析し、「序文」の正しい読法を定めた上で翻訳者等の確定に努めたい。

一、刊本の検討

『儀範』には『大正大藏經』をはじめ、様々な刊本がある。ここでは『大正大藏經』刊本（『大正藏』刊本と略す）ともう一つの特異な刊本¹、更に『磧砂藏本』を紹介しながら個人的な意見も述べていきたい。

始めに、『大正藏』刊本と特殊刊本はそれぞれ漢文で全く同じ内容が書かれているが、句読点の位置が異なり読み方も異なるため、内容に大幅な

¹ 「特殊刊本」とは広東省蓮峰古寺『佛学在线』などに使われている刊本。

差が生じている。まずは、この二つの刊本を比較してから個人の見解に移りたい。

○『大正蔵』刊本 (T. 1904 Vol. 45 p. 905a)

原夫瞻部嘉蓮。至四佛釋迦文如來遺教利見也。大元御世第五主。憲天述道。仁文義武。大光孝皇帝登極也。天資福慧。諱信內乘。普使萬邦咸歸一化。雖敷天垂拱。而至治無垠。眷支那弘道。而在躬不息。欲以自佛相承。師資繼踵。迄今不替。正戒儀範。為拳拳從善之行人。俾一恒持於淨戒。精練三業。堅守四儀。此實聖皇匡正佛法之睿旨也。昔因善逝與人天衆。普說無諍聲聞藏教。一切有部別解脫經。依此採拾。未得令得。律儀方便羯磨儀範。此乃聖光德師之總集也。始從天竺。次屆西番。爰有洞達五明法王大士薩思迦扮底達。名稱普聞。上足苾芻拔合思巴。乃吾門法主。大元帝師。道德恢隆。行位叵測。授茲儀範。衍布中原。令通解三藏比丘。住思觀演說正本。翻譯人善三國聲明。辯才無礙。含伊羅國翰林承旨彈壓孫傳華文。譯主生緣北庭都護府。解二種音。法詞通辯。諸路釋門總統。合台薩哩都通。暨翰林學士安藏。總以諸國言詮。奉詔譯成儀式。序本帝師之親製。繪為華跡以編陳。始末麤彰。聊記歲月。時庚午歲至元七年冬至後二日序

図 1-1

○特殊刊本

原夫瞻部嘉蓮至四佛釋迦文如來遺教利見也。大元御世第五主憲天述道仁文義武。太光孝皇帝登極也。天資福惠諱信內乘。普使萬邦咸歸一化。雖敷天垂拱而至治無垠。眷支那弘道。而在躬不息。欲以自佛相承。師資繼踵迄今不替。正戒儀軌為拳拳從善之行人俾一恒持於淨戒精練三業堅守四儀。此寔聖皇匡正佛法之睿旨也。昔因善逝與人天眾普說聲聞上教一切有部別解脫經。依此採拾未得令得。律儀方便羯磨儀軌此乃聖光德師之總集也。始從天竺。次屆西番。爰有洞達五明法王大士薩思迦扮底達名稱普聞上足苾芻發思巴乃吾門法主。大元帝師。道德恢隆行位叵測。授茲儀軌衍布中原。令通解三藏比丘住思觀演說正本。翻譯人善三國聲明辯才無礙。含伊羅國翰林承旨彈壓孫傳華文譯主生緣北庭都護府解二種音。法詞通辯。諸路釋門總統合台薩哩都通暨翰林學士安藏。總以諸國言詮。奉詔譯成儀式。序本帝師親製。繪為華跡以編陳。始末粗彰聊記歲月時庚午至元七年冬至後二日序

図 1-2

この二種類の刊本を見ると所々微妙に異なる箇所もあれば、全く違って
いる箇所もある。この中で、線を引いた部分は翻訳者等についての情報で、
網かけをした部分は全く違っていていることを示している。いうまでもなくこ
の違いは句読点付けることによって生じたものである。しかし文法上、こ
の両刊本のどちらかが間違っているとも言えないのである。

では、如何に理解すればよいのか。根拠になる手懸りが全くない訳では
ない。ここで、この資料の底本を見ていくことにする（底本は磧砂藏本²、
写真は合成したものである）。

大元帝師道徳恢隆行位巨測援茲儀範行
原夫瞻部嘉運至四
大元帝師道徳恢隆行位巨測援茲儀範行
佛釋迦文如來遺教利見也
大元御世第五主
憲天述道仁文義武大光孝皇帝登極也天
資福惠諦信內乘普使萬邦咸歸一化雖敷
天垂拱而至治無垠眷支那弘道而在躬不
息欲以自佛相承師資繼踵迄今不替正戒
儀範為拳拳從善之行人俾一一恒持於淨
戒精練三業堅守四儀此實
聖皇匡正佛法之
睿旨也昔因善逝與人天衆普說無諍聲聞
藏教一切有部別解脫經依此採捨未得令
得律儀方便羯磨儀範此乃聖光德師之總
集也始從天竺次屆西番爰有洞達五明法
王大士薩思迦拏底達名稱普聞上足苾芻
拔合思巴乃吾門 法主
大元帝師道徳恢隆行位巨測援茲儀範行
布中原令通解三藏比丘住思觀演說正本
翻譯人善三國聲明辯才無礙合伊羅國翰
林承旨彈壓孫
傳華文譯主生緣北庭都護府解二種音法
詞通辯諸路釋門總統合台薩哩都通暨
翰林學士安藏總以諸國言詮奉
詔譯成儀式
序本帝師之親製繪為華跡以編陳始末粗
彰聊記歲月時
彭卯記歲月時
庚午歲至元七月令至後二日序

- ① 原夫瞻部嘉運至四
 - ② 佛釋迦文如來遺教利見也
 - ③ 大元御世第五主
 - ④ 憲天述道仁文義武大光孝皇帝登極也天
 - ⑤ 資福惠諦信內乘普使萬邦咸歸一化雖敷
 - ⑥ 天垂拱而至治無垠眷支那弘道而在躬不
 - ⑦ 息欲以自佛相承師資繼踵迄今不替正戒
 - ⑧ 儀範為拳拳從善之行人俾一一恒持於淨
 - ⑨ 戒精練三業堅守四儀此實
 - ⑩ 聖皇匡正佛法之
 - ⑪ 睿旨也昔因善逝與人天衆普說無諍聲聞
 - ⑫ 藏教一切有部別解脫經依此採捨未得令
 - ⑬ 得律儀方便羯磨儀範此乃聖光德師之總
 - ⑭ 集也始從天竺次屆西番爰有洞達五明法
 - ⑮ 王大士薩思迦拏底達名稱普聞上足苾芻
 - ⑯ 拔合思巴乃吾門 法主
 - ⑰ 大元帝師道徳恢隆行位巨測援茲儀範行
 - ⑱ 布中原令通解三藏比丘住思觀演說正本
 - ⑲ 翻譯人善三國聲明辯才無礙合伊羅國翰
 - ⑳ 林承旨彈壓孫
 - ㉑ 傳華文譯主生緣北庭都護府解二種音法
 - ㉒ 詞通辯諸路釋門總統合台薩哩都通暨
 - ㉓ 翰林學士安藏總以諸國言詮奉
 - ㉔ 詔譯成儀式
 - ㉕ 序本帝師之親製繪為華跡以編陳始末粗
 - ㉖ 彰聊記歲月時
 - ㉗ 彭卯記歲月時
- （*「七月令至」は「七年冬至」の誤写である）

図 1-3

30 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

筆者は、底本である『磧砂藏』のこの書写が「序文」の内容を探っていく上で非常に有力な手懸りになるだろうと考えている。見易くするため、翻刻し、行毎に番号をつけた（図1-3）。この書写（写真）を見ると以下のような法則があることが分かる：

1. 新しい文章が始まる度に新しい行を作る。「序文」全体が八つの文章からなっている。

即ち、A. ①～②、B. ③～⑬、C. ⑭～⑱、D. ⑲～⑳、E. ㉑～㉒、F. ㉓～㉔、G. ㉕～㉖とH. ㉗は一つの文章になっている。

2. 仏名、元の皇帝と関係が有る語は平出されている。

②佛釋迦文如來一仏名。

④憲天述道仁文義武大光孝皇帝—⑩聖皇と同様。

⑩聖皇一元の皇帝。世祖クビライ（1260年-1271年）を指している。

⑪睿—宗睿、クビライが大ハーン（皇帝）位を世襲した後、父のトルイ（Tolui、拖雷1192年-1232年）に贈られた廟号である。

㉔詔—世祖クビライ皇帝の詔。

この他、「⑦息欲以自佛…」の「佛」は具体的に誰か（或は仏）を指していない為、平出する必要はなかったと思われる。

ちなみに、この書き方には著者（訳者）の文体（「二．翻訳者について」に詳しく説明する）がよく現れている。この書き方を辿り、句読点をつけると以下の通りである。

2 影印版 宋元『磧砂大藏經』線装書局 一一八卷 p. 289

原夫瞻部嘉蓮，至四佛釋迦文如來遺教利見也。
大元御世第五主，憲天述道，仁文義武，大光孝皇帝登極也。
天資福慧，諳信內乘，普使萬邦，咸歸一化。
雖敷天垂拱而至治無垠，眷支那弘道而在躬不息。
欲以自佛相承，師資繼踵迄今不替正戒儀範。
為拳拳從善之行人，俾一一恒持於淨戒。
精練三業堅守四儀。
此實聖皇匡正佛法之睿旨也。
昔因善逝與人天衆，普說無諍聲聞藏教一切有部別解脫經。
依此採捨未得令得，律儀方便羯磨儀範。
此乃聖光德師之總集也。
始從天竺次屆西番。
爰有洞達五明法王大士薩思迦拏底達名稱普聞。
上足苾芻拔合思巴乃吾門法主。
大元帝師，道德恢隆，行位巨測。
援茲儀範，衍布中原，令通解三藏，比丘住思觀，演說正本。
翻譯人善三國聲明，辯才無礙，含伊羅國翰林承旨彈壓孫。
傳華文譯主生緣北庭都護府，解二種音，法詞通辯，諸路釋門總統，
合台薩哩都通暨
翰林學士安藏，總以諸國言詮，奉詔譯成儀式。
序本帝師之親製。
繪為華跡以編陳，始末粗彰，聊記歲月。
時庚午歲至元七年冬至後二日序

図 1-4

二、翻訳者について

序文には『儀範』の翻訳者等について多く書かれているが、その中にもいくつかの検討すべき所がある。

(1) 訳者³は彈壓孫なのか

『大藏經全解説大事典』には「訳者は彈壓孫⁴」と書かれている。これは恐らく序文の「…含伊羅國翰林承旨彈壓孫傳華文…」という文句を『大正藏』によって理解したものであると考えられる。しかし、この「…含伊羅國翰林承旨彈壓孫傳華文…」という文句を如何に理解するかによって、見

3 訳者というのは中国語に訳した人を指す。

4 鎌田茂雄 [ほか] 編。雄山閣出版、東京 1998. 8 p. 555 下

32 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

解は変わってくる。正しい読み方を既を書いて置いたが、ここではその理由を述べることにしよう。『磧砂藏』には

翻譯人善三國聲明辯才無礙含伊羅國翰
林承旨彈壓孫
傳華文譯主生緣北庭都護府解二種音法
詞通辯諸路釋門總統合台薩哩都通暨
翰林學士安藏總以諸國言詮奉
詔譯成儀式

と書いてある。『磧砂藏』のこの書き方が序文を理解するに当たって大変有力な手懸りになることを先に述べたが、ここでは以下のようにABCに分けて、その文章の構造を見ていく。

- A. 翻譯人善三國聲明、辯才無礙、含伊羅國翰林承旨彈壓孫。
- B. 傳華文譯主生緣北庭都護府、解二種音、法詞通辯、諸路釋門總統、合台薩哩都通
- C. 暨翰林學士安藏、總以諸國言詮、奉詔譯成儀式。

すると、AとBの構造が全く同じであることが分かる。即ち

	訳者	言語能力	才能	出身地	官職
A	翻譯人	善三國聲明	辯才無礙	含伊羅國	翰林承旨彈壓
B	傳華文譯主	解二種音	法詞通辯	北庭都護府	諸路釋門總統

このように同じ構造（形）を取っている事（著者〔訳者〕の文体と言っても過言ではない）も序文を理解するに役立つと言える。これも又、図1-4のように読むべきであることを実証している。

次に上の文章の中からいくつかの名詞を説明しよう。

①含伊羅國

中国語で書かれた資料によると、「含伊羅國」は各時代において異なる漢字で記録されてはいるが、現在の新疆ウイグル自治区哈密地域のことを指しているのは確かである。例えば

『前漢書』にはこう書いてある。

三字訛通鑑考異已辨之矣。都護治烏壘城宋白日伊州伊吾郡漢伊吾廬地
宣帝時鄭吉爲西域都護治烏壘城即北臣召南按本傳言烏壘城去陽關二千

七百三十八里。…⁵

『元史』卷二百二 列傳第八十九「釋老伝」にも以下のように書かれている。

其後又有必蘭納識里者、初名只刺瓦彌的理、北庭感木魯國人…⁶

②翰林承旨

この「翰林」とは翰林院の略であるが「承旨」とは何を指しているのだろうか。古文書によると、唐の憲宗の時（806年）から「翰林院学士承旨」という官職が置かれ、元朝もそれを倣ったのである。

『元史』（卷八十七）「志第三十七 百官三」に：

「蒙古翰林院、秩從二品、掌譯寫一切文字、及頒降璽書、并用蒙古新字、仍各以其國字副之。至元八年、始立新字學士於國史院。十二年、別立翰林院、置承旨一員、直學士一員、…」⁷

と書いてある。

③彈壓孫

今までは、彈壓孫は人名であるという見方が一般的（主流）で、それを疑った人は誰一人いなかった。さらに、「彈壓孫」についての研究論文はほんの僅かしかないので、ここで紹介しながら議論していきたい。

まず、それらの論文で扱われた彈壓孫に関係する資料は：

- a. ベルリン・インド芸術博物館所蔵（ドイツ探検隊収集）の木版印刷仏典の断片。その二行目は中国語の音写を交えた梵語で、「翰林承旨公の姓たる私 Dhanyasena がウイグル語…」と書かれている⁸。
- b. 『松雪斎文集』（元・趙孟頫）の「端州路北乾明寺記」に記録されている「京師行御史臺丞張閣公宣政院參議且牙公引以見大護国仁王寺…」⁹という文章。

5 『東洋文庫所蔵』 図像史料マルチメディアデータベース：漢蘭臺令史班固撰唐正義大夫行秘書少監瑯邪縣開國子顔師古注『前漢書』卷 96 上 p. 42

6 中華書局『二十四史・元史』 p. 4519

7 中華書局『二十四史・元史』 p. 2190

8 百濟、後掲論文、p. 81 参照

9 『松雪斎文集』（四部叢刊初編集部所収）卷七 p. 71

34 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

- c. チベット大蔵経『BSTAN-HGYUR』の『tsan dan gyi sku rgya nags na bzhugs pa'i byon tshul bzhugs so（梅檀瑞像中国渡来記）』の後書きである「mdor bsdu pa'di chu mo phag lo zla ba gnyis pa'i tshes bcu gsum la rgya'i skad las yo gur gyi skad du bsgyur mkhan am chang zhes bya ba dang/yo gur skad las bod skad du sgyur mkhan da na si zhes bya ba gnyis kyis legs par bsgyur ba'o」¹⁰（概略したこれを女猪年（癸亥）二月十三日、中国語からウイグル語に訳した Am Chang という者とウイグル語からチベット語に訳した Da na si という二人がきちんと訳したのである。）
- d. 『至元法寶勘同総録』巻一の「論釋教總統合台薩里召西蕃拏底答帝師拔合思八高弟葉璉國師、湛陽宜思、西天拏底答尾麻羅室利、漢土義學亢理二講主慶吉祥及畏兀兒齊牙答思、翰林院承旨且壓孫安藏等集於大都。」¹¹
- e. 「出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）」の序文と「根本説一切有部苾芻習學略法」の後書（例文は省略する）

等であり、以下が「彈壓孫」についての研究論文の一覧である。

- 百濟康義 『「梅檀瑞像中国渡来記」のウイグル訳とチベット訳』¹²
- H. Franke, "Chinesische Quellen über den uigurischen Stifer Dhanyasena." *Memoriae Munusculum. Gedenkband für Annemarie von Gabain*, Wiesbaden, 1994, pp. 55-64¹³
- L. Sander, "Der Stifer Dhanyasena, ein ungewöhnlicher Blockdruck aus dem Museum für Indische Kunst, Berlin." *Memoriae Munusculum. Gedenkband für Annemarie von Gabain*, Wiesbaden, 1994, pp. 105-121¹⁴
- 黄明信 『「至元法寶勘同総録」及其藏訳本箋証』序文¹⁵

¹⁰ 北京版『BSTAN-HGYUR』No. 5090 ru 155a

¹¹ 『永樂北藏』-『永樂北藏』整理委員會 [編] 177. 綫装書局 2000. 3 北京 p. 447

¹² 『中央アジア出土文物論叢』責任編集：森安孝夫、京都・朋友書店 2004. 3、pp. 71-84

¹³ 百濟、前掲論文、p. 81 参照

¹⁴ 同上

○ 蘇晋仁 「関于‘至元録’的論文」¹⁶

これらの論文の基になった資料は：

H. Franke、L. Sander、百濟康義らは上に挙げた資料における Dhanyasena、旦牙、Da na si、旦壓孫、彈壓孫等すべてを同じ人物であると見ている。

ちなみに『至元法宝勘同総録』では「翰林學士承旨中奉大夫彈壓孫 奉詔訳西番語¹⁷」と書かれており、又、モンゴル語大蔵経『DANJUUR (ダンジュウル)』では「Da na si」が「Dansi¹⁸」と書かれている。

では、この彈壓孫は誰なのか。「翰林學士承旨中奉大夫」という肩柄からすると相当な官僚であったことが分かるが、皮肉なことに『元史』等の歴史書には記録されていない。しかし、元時代の「翰林學士」「承旨」については明確な記録があるので、そこから検討していきたい。『元史』によると、「翰林兼國史院，秩正二品。中統初，以王鶚為翰林學士承旨，未立官署。至元元年始置，秩正三品。六年，置承旨三員、學士二員、…十四年增承旨一員…二十一年增學士二員…」 「至元八年，始立新字學士于國史院。十二年，別立翰林院，置承旨一員、直學士一員…十八年增承旨一員學士三員…」¹⁹としており、至元六年まで、翰林學士承旨は王鶚一人、至元六年（1269）～至元十二年（1275）までは「承旨」四人、「學士」二人であったことが分かる。また、「承旨」の人数は至元十四年まで、「學士」の人数は至元十八年までは一貫して同じであった。

『元史』等の記録に基づくと、それらの主な人物は以下の通りである。

○ 承旨：

王鶚一 至元五年に引退²⁰。

¹⁵ 漢藏大蔵経目錄導同研究：『「至元法宝勘同総録」及其藏訳本箋証』黄明信著 北京・中国藏学出版社 2003. 8

¹⁶ 同上

¹⁷ 『永樂北藏』 - 『永樂北藏』整理委員會 [編] 177. 綫装書局 2000. 3 北京 p. 445

¹⁸ 『DANJUUR』 No. 4150 (85-60) p. 223b

¹⁹ 『元史』(卷八十七)「志第三十七 百官三」・中華書局『二十四史・元史』p. 2189-2190

²⁰ 『元史』卷一百六十・「列傳第四十七」より

36 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

- 和礼霍孫一 遅くても、至元十年には「翰林学士承旨」であった²¹。
撒的迷底里一 遅くても、至元十二年には「翰林学士承旨」であった²²。
姚樞一 至元十三年に翰林学士承旨」になった²³。
安藏一 元の中統四年の直後「翰林承旨」であったと考えられる²⁴。

○学士：

- 宋子貞一 至元三年に引退²⁵
王磐一 至元十一年（『元史』では至元十三年）に「翰林学士」であった²⁶。その後には「翰林承旨」まで上るが、それは遙か後のことである。

「五年，乞致仕，詔有司歲給廩祿終其身，有大事則遣使就問之。」（同上 p. 3757）

21 『元史』 卷八・「本紀第八（世祖五）」より

「十年…九月辛巳…以翰林学士承旨和礼霍孫兼會同館事，以主朝廷咨訪，及降臣奏請。」（同上 p. 151）

22 『元史』 卷八・「本紀第八（世祖五）」より

「十二年…三月…分置翰林院，專掌蒙古文字，以翰林學士承旨撒的迷底里主之。其翰林兼国史院，仍舊纂修國史，典制誥，備顧問，以翰林学士承旨兼修《起居注》和礼霍孫主之。」（同上 p. 3732）

23 『元史』 卷一百五十八・「列傳第四十五」より

「十三年，拜翰林學士承旨。十七年，卒，年七十八，諡曰文獻。」（同上 p. 3716）

『佛祖歴代通載卷第二十一』より

「丙子至元十三年…姚樞仁恕恭敬。未嘗疑人之欺。凡有與謀者必忠告。人莫不敬之。時以為翰林學士。宋侍從之臣及士子。至上都皆令樞隨學行而官之。」（『大正大藏經』・「史傳部」No. 2036 p. 905c06～16）

24 『元史』 卷一百六十・「列傳第四十七（徐世隆傳）」より：

「四年，世祖問堯、舜、禹、湯為君之道，世隆取書所載帝王事以對，帝喜曰：「汝為朕直解進讀，我將聽之。」書成，帝命翰林承旨安藏譯寫以進。」（中華書局『二十四史・元史』 p. 3769）

25 『元史』 卷一百五十九・「列傳第四十六」より

「三年十一月，懇辭，乃得請。特敕中書，凡有大事，即其家訪問。」（同上 p. 3737）

26 『佛祖歴代通載卷第二十一』より

これまでに述べてきた「出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）」の序文を踏まえて考えると、この時代には「翰林学士」が二人、「翰林承旨」が五人いたことになるので『元史』の記録²⁷とは矛盾している。しかし、「序文」では安蔵が「翰林承旨」ではなく「翰林学士」になっているので、『元史』と「序文」の二つの中、どちらかが間違っているに他ならない。程鉅夫（元）の『程雪樓文集』には

世祖即位…親王阿里不哥潛謀不軌 天子重以骨肉之情 命公往調護之
…

公因举「仁賢勿貳 去邪勿疑」（尚書・大禹謨篇）…上大悦 特授翰林
学士…

奉詔訳『尚書』『資治通鑑』『難経』『本草』成 進承旨…²⁸

と書かれている。親王阿里不哥（Ariybuḥ-a アリクブケ）とクビライ（Hubilai 世祖）の両軍は何度も激突するが、中統二年（1261年）シムトノール（Simtu Nayur）の会戦ではクビライが勝利し、中統五年、（至元元年・1264年、）阿里不哥（アリクブケ）はクビライに降伏する。よって、安蔵が『尚書』『資治通鑑』『難経』『本草』を訳したのはもっと後のことであるはずである。このことから『元史』：「四年（中統）…書成、帝命翰林承旨安蔵譯寫以進²⁹」の「承旨」は「学士」の誤りであることが分かり、そうすると彈壓孫を含めて「翰林承旨」が丁度四人になるので『元史』の記録と合致するのである。

では、何故「彈壓孫」が『元史』に記録されていなかったのかという点についてだが、筆者が思うには、「彈壓孫」とは官職と人名の合成語であ

「是年（至元 11 年）八月。故光祿大夫太保贈太傅儀同三司文貞劉公薨翰林學士嘉議大夫知制誥兼修國史王磐。」（『大正大藏經』・「史傳部」No. 2036 p. 705 c10）

「十二年春詔贈太傅儀同三司下太常議。諡曰文貞。仍命翰林學士王磐撰碑文字。」（『大正大藏經』・「史傳部」No. 2036 p. 706 b20）

『元史』卷九・「本紀第九（世祖六）」より

「十三年…夏四月…翰林學士王磐…」（中華書局『二十四史・元史』p. 175-182）

²⁷『元史』には至元十四年まで「承旨」を増やしたという記録がない。

²⁸『程雪樓文集』（四部叢刊初編集部所収）

²⁹註の 24 を見よ。

38 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

り、それが主な原因なのではないだろうか。記録によると「彈壓」とは金（1115年-1234年）の時代から始まった官職（千戸所官員）³⁰で、元朝まで受け継がれていたのである。

『金史』には

「仍令兼領樞密院彈壓之職、以鎮軍人…」³¹

「十一月辛丑朔、以右副都點檢阿勒根移失刺為宣差鎮撫都彈壓、別設彈壓四員副之…」³²

と書かれている。

又『元史』にも

「行軍千戸所十、秩正五品 達魯花赤十員 副達魯花赤十員 千戸十員 副千戸十員 彈壓二十員…」³³

「外則万戸之下置総管、千戸之下置総把、百戸之下置彈壓、立樞密院以総之。」³⁴

等と書かれている。

また、今まで発見されている元の官印の中にも、パクパ文字³⁵で書かれた彈壓の官印が（図1-5）ある。



図 2-1

30 呂宗力編『中国歴代官制大辞典』（北京出版社 1994年）には「元朝千戸所官員、二員、蒙古、漢人參用。上千戸所叢八品、中、下千戸所叢正、叢九品内銓注」（p. 764）とある。

31 『金史』「志 第三十五（選舉四）」・中華書局『二十四史・金史』p. 1196

32 『金史』（卷一十八）「本紀第十八（哀宗下）」・同上 p. 402

33 『元史』（卷八十六）「百官二」・中華書局『二十四史・元史』p. 2158

34 『元史』（卷九十八）「志第四十六 兵一」・同上 p. 2508

35 パクパ文字（Dörbüljin ösüg, 八思巴文字）とは元のクビライハーンの命令で帝師パクパの作った文字である。

「図 2-1」³⁶の何れも漢文をパクパ文字で転写したもので、漢字で書くと「忠信義兵千戸所 TANYA 之印」「毘陽等処義兵千戸所 TANYA 印」となり、この「TANYA」が『元史』の「彈壓」であることは言うまでも無い。

では、「彈壓孫」とはどんな意味だろうか。「TANYA」には決まった漢字がない（彈壓、且壓等と書く）ことから、「TANYA」が中国語でないことが断定できる。

また、遼金朝の歴史資料を参照すると、「官職名+人名（略された人名）」という特殊な書き方があり、それは「彈壓孫」とよく似た表記である。例えば、脱脱等編『金史』・「列傳第十二」には以下のような文句がある：

「宗翰本名粘沒喝、漢語訛為粘罕、國相撒改之長子也。年十七、軍中服其勇。…宗望與當海四騎以繩系遼都統林牙大石、使為鄉導、直至遼主營。…遼帝之奔陰山也、遼節度使和尚與林牙馬哥、男慎思俱被擒、都統杲使阿鄰護送得裡底、和尚、雅裡斯等入京師。」³⁷

ここで表記されている「林牙大石」とは「林牙耶律大石³⁸」のことであり、この「林牙³⁹」が契丹語か女真語かは定かではないが、「翰林学士」に相当する官職と思われる。

同じく、「彈壓孫」の「彈壓」は契丹語または女真語の官職名で、「孫」はその人物名であると思われる。言うまでもなく彼（孫という人）の名前は中国語ではないが、中国語では「孫」と記され、またチベット語では「SI」、「サンスクリット語では「SENA」と表記されている。然しながら一つ付け加えると、『松雪齋文集』に記録されている「且牙」がこの「彈壓孫」のことであるとは限らない。

³⁶ 照那斯図、楊耐思編『蒙古字韻校本』民族出版社、北京 1987 年 p. 70. 75

³⁷ 中華書局『二十四史・遼史』p. 1702

³⁸ 『遼史』（卷三十）・「本紀第三十（天祚皇帝四）」には：

「保大二年，天祚入夾山，奚王回離保、林牙耶律大石等引唐靈武故事，議欲立淳。」と書いてある。（同上 p. 352）

³⁹ 『遼史』（四十五）「志第十五（百官志一）」にこう書いてある：

「太祖分迭刺夷離董為北、南二大王、謂之北、南院。宰相、樞密、宣徽、林牙、下至郎君、護衛、皆分北、南、其實所治皆北面之事。語遼官制者不可不辨。…行樞密院。有左、右林牙、有參謀。…」（同上 p. 685）

40 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

そしてもう一つ注目すべきなのは『tsan dan gyi sku rgya nags na bzhugs pa'i byon tshul bzhugs so（梅檀瑞像中国渡來記）』の後書きに書かれた「中国語からウイグル語に訳した Am Chang」「ウイグル語からチベット語に訳した Da na si」という記録である。然るに、「Da na si（彈壓孫）」は中国語が理解出来ず、一度ウイグル語に訳してもらわなければチベット語に訳すことは出来なかったと推測することができる。故に、彈壓孫が『儀範』の中国語（華文）の翻訳者であるとは言い難い。また、上述の読み方（図1-4）から見ても、彈壓孫は中国語（華文）の翻訳者ではないと言える。

(2) 翻訳者は誰なのか

先ず、序文の「傳華文譯主生緣北庭都護府。解二種音。法詞通辯。諸路釋門總統合台薩哩都通。」（華文に傳ふる譯主、北庭都護府に縁りて生まる、二種の音を解ひて、法詞に通辯す、諸路釋門の總統の合台薩哩都通たり。）という文句を見ると中国語に訳した人は「諸路の釋門の總統の合台薩哩都通」であることになる。では、合台薩哩都通という人物は誰なのか。それを探るにあたって、いくつかの歴史資料から関係のあるものを抜粋して見よう。

「惟我大元世主……念藏典流通之久，蕃漢傳譯之殊，特降綸音，溥令對辯，論釋教總統合台薩里，召西蕃報底答、帝師拔合思八高弟叶璉，國師湛阳宜思，西天拈底答尾麻囉室利，漢土義学允理二講主慶吉祥，及畏兀儿斡牙答思，翰林院承旨彈壓孫，安藏等集於大都。⁴⁰」—『至元法宝勘同總録』（卷一）

「阿魯渾薩理阿，畏兀人。祖阿台薩理，…乞台薩理，襲先業，通經、律、論。…⁴¹」—『元史』（卷百三十）「例傳十七・阿魯渾薩理傳」

⁴⁰ 『昭和法宝総目録』二卷 p. 180b

⁴¹ 中華書局『二十四史・元史』p. 3174

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼） 41

「及至元十八年十月二十日。焚毀道藏偽經始末。可書其事于石（臣監）等謹按釋教總統合台薩哩所録事跡。」⁴² — 『佛祖歷代通載』（卷第二十一）

「阿魯渾薩理回鶻北庭人今則畏吾兒也…父諱乞台薩理早受浮屠法…⁴³」
— 『松雪齋文集』（元・趙孟）・「碑銘」

これらの資料を見ると「合台薩哩」、「合台薩里」、「乞台薩理」等と異なる名前で表記されているが、このような人物がいたのは確実である。言うまでも無く「都通」は彼の官職である。

次に、「…暨翰林學士安藏。總以諸國言詮。奉詔譯成儀式。（…暨び翰林學士安藏が諸國の言詮を以って總ぶ、詔を奉り儀式を譯成す。）」という文句を見てみよう。この翰林學士安藏は元の別失八里（Bishbaliq [= 北庭]、今の新疆ウイグル自治区ジムサ付近）出身のウイグル人で、翻訳者である。字は國寶、自からは號を龍宮老人と称していた⁴⁴。『元史』に拠ると安藏は「通諸國語⁴⁵」（諸國語を通ず）と記されている。また、どの刊本にも「奉詔譯成儀式」と書かれているが、この「儀式」は「儀範」を指しているか、或は以下の三点から「儀式」の「式」は「範」の書き間違いであると考えられることも出来る。

①もし、この表記が正しいとすれば：安藏が皇帝の詔を受けて訳を完成させ、儀式を行ったことになる。しかし、この儀式は翻訳が完成したことを理由に行われたとは考えにくい。

②この文章の冒頭には「暨」という文字があるが、「暨」は「及び」という意味なので、「…が華文に伝えた（訳した）。その訳主は…合台薩哩都通及び安藏が…儀式を行った。」という一節はややあいまいである。

③この表記を「儀式」では無く、「儀範」とすると、この文章は「…が

42 『大正大藏經』「史傳部」（卷49）p. 708b

43 『松雪齋文集』（四部叢刊初編集部所収）卷七 p. 73

44 程鉅夫（元）『程雪樓文集』卷九・「秦國文靖公神道碑」を参照。

45 『元史』（卷百七十七）「例傳六十四」・中華書局『二十四史・元史』p. 4130

42 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

華文に伝えた（訳した）。その訳主は…合台薩哩都通である。及び安藏が…「儀範」の訳を完成させた。」となる。

さて、ここで翻訳者が一体誰なのか、その正体を探るにあたり、以下に該当箇所を再提示しよ。

○翻譯人善三國聲明、辯才無礙、含伊羅國翰林承旨彈壓孫。

○傳華文譯主生緣北庭都護府、解二種音、法詞通辯、諸路釋門總統、合台薩哩都通。

○翰林學士安藏。總以諸國言詮。奉詔譯成儀範（式）。

これらの記述から以下のことが分かる。

- A. 翻譯人が翰林承旨彈壓孫であること。
- B. 翰林承旨彈壓孫が三カ国の言葉が分かる人（トリリンガル）であること。
- C. 華文に伝えた譯主が諸路釋門總統合台薩哩都通であること。
- D. 合台薩哩が二種の音（二カ国の言葉）が解る人（バイリンガル）であること。
- E. 翰林學士安藏が諸國の言詮（言葉）を統一し、皇帝の詔を奉り「儀範」の訳を完成させたこと。

上述の内容により翻訳者を確定する前に、この序文の翌年に書かれた『根本説一切有部苾芻習学略法』の「後書き」の文章を見ておこう。そこには

「…翰林承旨彈壓孫譯成畏兀兒文字。宣授諸路釋教都總統合台薩哩都通翻作華言⁴⁶。」という一節があるが、この「畏兀兒文字」とはモンゴル文字⁴⁷を指している。『元史』にも「二十三年（至元13年）…翰林承旨撒裏蠻言：國史院纂修太祖聖朝實錄、請以畏吾字繙譯、俟奏讀然後纂定。」⁴⁸と

46『大正大藏經』（「諸宗部」）卷45 No. 1905 p. 915a

47 モンゴル人はモンゴル帝国時代（1260年～）からウイグル文字を使うようになった。その文字をモンゴル語でウイグルジン・モンゴル文字（Oyiyurjin monggol Ösüg）と言う。

48『元史』（卷一十四）「本紀第十四（世祖十一）」・中華書局『二十四史・元史』

いう記録があるが、その「畏吾字」もモンゴル文字のことである。

さらに、もう一つ明確にして置きたいことは、「序文」に登場する三人が、実際のどの国々の言葉が解かるのかということである。今まで見てきた資料を振り返って見れば一目瞭然であるが一人ずつ分析していこう。

○孫（SI 或いは SENA）——三國の聲明を善す（三カ国の言葉を良く知っている）。すなわち：ウイグル語、チベット語、モンゴル語。

○合台薩哩——二種の音を解す（二カ国の言葉を理解する）。すなわち：ウイグル語、中国語。

○安蔵——諸國語に通ず（諸國の言葉を知っている）。少なくとも以下の四カ国の言葉を知っていたに違いない。すなわち：ウイグル語、中国語、モンゴル語（根拠は注の24）、チベット語（『聖救度佛母二十一種禮讚經』⁴⁹をおそらくチベット語から訳したのであろう）。

以上の分析からすると、孫（SI 或いは SENA）がチベット語からウイグル文字（モンゴル語）に訳し、合台薩哩がそれを中国語に訳した後に、安蔵が纏めたと考えられる。よって、厳密に言うとは中国語の翻訳者は合台薩哩である。

三、作成年代

序文には「序本帝師之親製。繪為華跡以編陳。始末麤彰。聊記歲月。時庚午歲至元七年冬至後二日序」と書かれているので、序文が書かれたのは1270年12月24日頃であることが分かる。また、『磧砂藏』本の「至元七月令至後二日」は「至元七年冬至後二日」の間違いであり、『明北藏』を始め、諸大藏経では訂正されている。

結 語

ここまで、『儀範』の序文について三つの項目に分けて論じてきたが、ここで結語として主な結論をまとめて置きたい。

p. 285・294

⁴⁹『大正大藏経』卷二十、No. 1108A

- 44 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）
1. 彈壓孫は『儀範』をチベット語からウイグル文字（モンゴル語）に訳した人物である。
 2. 『儀範』の中国語の翻訳者は合台薩哩である。
 3. 諸翰林承旨の中、唯一「孫（SI 或は SENA）」は『元史』などの主な歴史書に記録されていなかった。
 4. 「彈壓孫」の「彈壓」は官職名であり、「孫」は「SI 或は SENA」という人物名である。
 5. 『松雪斎文集』に記録されている「旦牙」が「彈壓孫」のことであるとは限らない。

Summary

Who is the translator of the *Gen ben yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* — Analysis of the Preface

Qindamuni

Gen ben yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan (根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範) is one of the writing of 'Phags-pa, which is recorded in many "Da zang jing 大藏經" such as the Qisha Edition (磧砂大藏經). *Gen ben yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* is divided into two parts -an introduction and main text which advocates the manners on becoming a priest and obeying the Buddhist rules. In the introduction, the circumstances and process of composing the *Gen ben yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan*, as well as the translators have been written in detail. However, due to the special historical background, there is some confusion in the name of the person and titles. Moreover, there are also a number of incomprehensible points because of the Classical Chinese style which has no punctuation in the sentence. This resulted in mistakes made even by such prestigious works as the *Daizō-Kyō Zen-Kaisetsu Dai-Jiten*.

This paper indicates some new perspectives on the translators, determining a correct way to read it:

1. DANYASUN 彈壓孫 is the person who translated the *Gen ben yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* into Mogolian from Tibetan.
2. *The Gen ben yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* was translated into Chinese by HETAISALI 合台薩哩.
3. In the HANLINSHENGZHI (翰林承旨), only SUN 孫 (SI or SENA) was not recorded in any of these major history books such as the

46 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範』の翻訳者は誰なのか（欽達木尼）

Yuan shi.

4. DANYASUN 彈壓孫 of DANYA 彈壓 is a title, and SUN 孫 is a person's name which may pronounce as SI or SENA.
5. DANYA 旦牙 recorded in *Songxuezhai wenji* 松雪齋文集 does not necessarily mean DANYASUN 彈壓孫.

*Postgraduate Student,
International College
for Postgraduate Buddhist Studies*